

[研究論文] イギリスの民話・伝説に現れる動物名—IV

池田広昭

基礎・教養教育センター

Animal Names that Appear in British Folktales and Legends—IV

Hiroaki IKEDA

Abstract

The purpose of this paper is to present a comprehensive list of animal names, along with their frequencies, which appear in Part B, Volume II of *A Dictionary of British Folktales in the English Language* by Katherine M. Briggs. How these animals are dealt with in the folktales is also described.

Keywords: Animal, Frequency, Folktale, Britain

1. 序

動物に対する見方や接し方には文化的パターンが存在する。イギリス人の場合はどうなのであろうか。それを探る手がかりを得ようと、筆者はいままで Chaucer, Shakespeare, マザー・グース, 民話・伝説などの古典作品や民間伝承に登場する動物を調べてきた。その結果はすでに数編の論文として発表されている¹⁾。本稿は、その中の「イギリスの民話・伝説に現れる動物名—I～III」(池田; 2004, 2007, 2008)の続編である。Katherine M. Briggs の *A Dictionary of British Folktales in the English Language* の第4巻(最終巻)にあたる Part B, Volume II に収められている伝説に登場する動物に関して、その種類、登場回数、扱われ方等について調べた結果をまとめたものである。本稿をもって Briggs の *Dictionary* 全巻について、登場する動物(と植物)の資料が揃うことになる。Part B, Volume II には歴史的出来事を題材とする話、土地にまつわる話、有名人や聖人の逸話、魔女伝説などが集められている。

調査・整理の仕方としては、民話を読みながら自分の目で見て動物名を拾い出し、その種類、登場回数、文脈中での扱われ方についてまとめるという方法をとっている。種類だけでなく、登場回数も調べているのは、それがその動物に対する関心度をはかるひとつの目安になると考えるからである。扱われ方というのは、話に登場する動物が話の中で果たす役割が様でなく軽重や性格の違いがあるので、それを主題、モチーフ、背景描写、修辞の4つに区別して、1例1例どれにあたるかを判断し

て分類し数値化したものである。なお、以上の作業は、動物名を拾い出し種類と扱われ方を判断するなどの基本的な部分は手作業で行っている。それだけでなく、登場回数や扱われ方の頻度の集計もコンピュータを使わずに手作業で行っている。機械的に処理できないところがあるからである。ただし記録と整理のためにはコンピュータを利用している²⁾。

2. 動物名の種類と頻度

Katherine M. Briggs の *Dictionary*, Part B, Volume II に収録されている話に現れる動物名とその登場の頻度及び扱われ方を、登場の頻度が高い順に一覧表にして以下に示す。(表1～8)

動物名を拾い出すにあたっての基準と整理の仕方は、基本的に「イギリスの民話・伝説に現れる動物名—I～III」(池田; 2004, 2007, 2008)と変わらないが³⁾、本稿に関して、特に以下の3点を記しておきたい。

1) worm という語は、*Dictionary*, Part B, Volume II においては、登場する話によってドラゴン、蛇、芋虫類のどれを表すかがかわる。したがって文脈で判断して、架空動物、爬虫類、昆虫類の3つに振り分けてある。ほかに brace も哺乳類と鳥類の2つに振り分けた。

2) 比喩は修辞として使われることが多いが、中には文の飾りというよりは実質的な説明といったほうがよい使われ方のものがある。このような場合でも、形が明らかに比喩のものは、背景描写ではなく修辞として扱った。たとえば、he looked like a bear や an imp like a monkey な

どは比喩の部分を除くと情報が減るので説明的要素が強い表現と言えるが、形が比喩なので修辞として扱うということである。

3) あきらかに動物名であっても話の内容に直接関係がない固有名詞、たとえば、パブの名に現れる Buck, Bull や人名の Bull, Robin などは採らない。地名にもよく動物名が現れるが、話の筋に直接関係がない場合は採らない。境界線上のものは適宜判断した。

Briggs の *A Dictionary of British Folktales in the English Language* の Part B, Volume II に登場する動物名の数と合計登場回数をまとめると次のようになる。

哺乳類：	異なる名の総数	135 種
	合計登場回数	1702 回
鳥 類：	異なる名の総数	52 種
	合計登場回数	251 回
爬虫類：	異なる名の総数	7 種
	合計登場回数	39 回
両性類：	異なる名の総数	4 種
	合計登場回数	38 回
魚介類：	異なる名の総数	20 種
	合計登場回数	55 回
昆虫類：	異なる名の総数	10 種
	合計登場回数	43 回
架空動物：	異なる名の総数	7 種
	合計登場回数	36 回
その他：	異なる名の総数	3 種
	合計登場回数	11 回
動物合計：	異なる名の総数	238 種
	合計登場回数	2175 回

3. 種類と頻度の傾向及び若干の考察

上記の数値は、Briggs の *Dictionary* のほかの 3 巻の数値⁴⁾とくらべてどのような特徴があるであろうか。動物名の数が 238 種というのは 4 巻中一番多い。ただし、特別多いわけではなく Part A, Volume II (226 種) および Part B, Volume I (231 種) と近い数であり、Part A, Volume I (191 種) より少し多い程度である。Part B, Volume II の動物名の総言及回数は 2175 回であるが、Part A, Volume I が 2136 回、Part A, Volume II が 2916 回、Part B, Volume I が 1686 回なので、4 巻中では中間的な位置を占める。ただし、各巻は民話・伝説が載っている部分のページ数が違うので、合計数で単純に比較することは適切でないかもしれない。分布密度でくらべてみると、各巻の民話・伝説の部分のページ数は、順に 480, 580, 623, 774 であるので、動物名の分布密度は、Part B, Volume II が 1 ページ当たり 2.8 回、Part A, Volume I が 4.5 回、Part A, Volume II が 5.0 回、Part B, Volume I が 2.7 回となる。Part B, Volume II はだいたい Part B, Volume I と等しい。全体として Part A の 2 巻のほうが Part B の 2

巻より分布密度が 1.6 倍から 1.9 倍ほど高いことがわかる。これは Part A がお伽噺的要素の強い民話が主であるの対して B が比較的地味な伝説に当てられていることによると考えられる。一般にお伽噺のほうが伝説より空想的でロマンチックであり、動物の登場回数が多くかつ生き生きと描かれる傾向があることが数字に反映しているとみられる。Part B, Volume II の中には魔女伝説が、一番お伽噺的要素が強く、動物名の登場回数が多い。この魔女伝説の章に集中的に動物名が現れるために巻全体の数値が押し上げられている。

Part B, Volume II の動物名の顔触れ、頻度等はいままで調べた Chaucer 以下の 6 者とだいたい似た傾向を示している⁴⁾。すなわち動物名の数と合計言及回数では、哺乳類が群を抜いて多く、次に鳥類が来る。そしてそれ以外は数値的に両者にかなり引き離されている。両生類や爬虫類が少ないのは、ある程度予想の範囲であるとしても、日本人の感覚からすれば、昆虫類への言及が極端に少ないと感じる。ただ、このことはこの巻に限ったことではなくほかでも同じである。頻度の高い動物名の顔触れも大体似た傾向を示し、horse, dog, sheep, cow, pig, cattle, cat, hare, hound, cock, hawk, hen などの家畜、家禽、狩猟関連の動物や民間伝承で人気の高い toad, dragon などが見えている。なかでも horse の多さ (148 の話に合計 399 回登場) は際立っている。Horse は常に登場回数が多い動物であるがこの巻は特別多い。Horse が筋にからむ場合が 74 回、情景描写に出てくる場合が 84 回、修辭的な扱いが 6 回となっている。Horse は全編に渡って分布しており、特定の章に集中して登場しているということはない。Horse というものが英国の昔の日常生活や戦いに欠かせないものだったということがうかがえる。珍しいというほどではないが、raven, snake, eel, bee などの登場回数がやや多めであるのが、Part B, Volume II の特徴である。なお、資料間で共通性の高い動物名は表中の「その他の資料」の列に該当を示す記号が多く表示されているのですぐわかる。また、この巻にしか現れない動物名は同じ列にハイフンが 6 つ表示されているので容易に見分けがつく。どの巻にもその巻にしか登場しない特殊な動物名 (方言形や特定の話種に現れやすいものなど) が一定数あるが、この巻もその点他の巻と変わらない。

この巻は、鳥類の種類と登場回数が、Part B, Volume I ほどではないが、ほかとくらべて少なめであるという特徴を示している。古典文学作品やお伽噺、伝承童謡と違い、全般に伝説にはあまり鳥類が登場してこないようである。

Part B, Volume II に登場する動物の中でも、hare (ノウサギ) あるいは rabbit (ウサギ) (民話のなかでは hare と rabbit の違いはあまり問題にされていないように見える。) にまつわる話が、日本の民話・伝説にみられない特徴を示している。英語には as mad as a March hare という表現があることからわかるように、hare には狂気や乱暴のイメージが連想されるようである。そのせいもあつ

表1. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-B2: 哺乳類

動物名	日本語訳	登場する 話の数	回 合 計 登 場 数	主 題	モチ ーフ	情景 描写	修 辞	その他の資料
horse	ウマ	148	399	0	74	84	6	C S M A1 A2 B1
dog	イヌ	60	149	1	37	22	6	C S M A1 A2 B1
sheep	ヒツジ	51	113	0	14	36	3	C S M A1 A2 B1
cow	雌牛	49	110	2	29	17	1	C S M A1 A2 B1
pig	ブタ	31	59	0	21	7	4	C S M A1 A2 B1
cattle	家畜, 特に牛	29	36	0	12	16	1	C S - A1 A2 B1
cat	ネコ	25	74	0	20	3	3	C S M A1 A2 B1
hare	ノウサギ	24	83	0	19	1	4	C S M A1 A2 B1
hound	猟犬	20	46	0	13	5	2	C S M A1 A2 B1
steed	軍馬	12	12	0	7	4	1	C S M A1 A2 B1
deer	シカ	11	18	0	7	4	0	C S M A1 A2 B1
mare	雌馬	11	27	0	10	1	0	C S M A1 A2 B1
bullock	去勢した雄牛	10	16	0	6	3	1	- S - A1 - B1
lamb	子羊	10	12	0	3	4	4	C S M A1 A2 B1
ox	去勢した雄牛	10	24	0	6	3	1	C S M A1 A2 B1
bull	雄牛	9	23	0	5	0	4	C S M A1 A2 B1
stag	5歳以上の雄鹿	9	12	0	7	1	1	- S M A1 A2 B1
pony	ポニー	8	14	0	3	5	0	- - M A1 A2 B1
caballus	ウマ (ラテン語)	7	7	0	1	6	0	- - - - - B1
lion	ライオン	7	9	0	1	1	5	C S M A1 A2 B1
rabbit	イエウサギ	7	12	0	4	3	0	- S M A1 A2 B1
rat	ネズミ	7	33	0	3	2	2	C S M A1 A2 B1
boar	イノシシ	6	24	0	4	1	1	C S M A1 A2 B1
calf	子牛	6	9	0	2	3	1	C S M A1 A2 B1
hog	去勢した雄豚	6	8	0	3	1	2	C S M A1 A2 B1
bitch	雌犬	5	14	0	4	1	1	- S - A1 A2 B1
doe	雌鹿	5	14	0	5	0	0	C S M A1 - -
flock	ヒツジの群れ	5	11	0	2	3	0	- S - - - B1
fox	キツネ	5	14	0	3	1	2	C S M A1 A2 B1
goat	ヤギ	5	7	0	2	3	0	C S M A1 A2 B1
herd	イヌ, ウシ, ブタの群れ	5	6	0	2	3	0	- - - - A2 B1
mouse	ハツカネズミ	5	13	0	3	0	2	C S M A1 A2 B1
wild boar	イノシシ	5	5	0	4	1	0	- - - A1 - -
bull(-)dog	ブルドッグ	4	4	0	2	1	1	- - - - -
ewe	雌羊	4	4	0	2	1	1	- S M A1 A2 B1
greyhound	グレイハウンド	4	9	0	4	0	0	C S M A1 A2 B1
mole	モグラ	4	5	0	1	1	2	- S M A1 A2 B1
sow	雌豚	4	8	0	2	1	1	- S M A1 A2 B1
team	1組のウマ	4	4	0	0	4	0	- S - - A2 B1
wolf	オオカミ	4	11	0	3	1	1	C S M A1 A2 B1
bear	クマ	3	4	0	1	1	1	C S M A1 A2 B1
blood(-)hound	ブラッドハウンド	3	10	0	3	0	0	- S - A1 - B1
collie (or colly)	コリー	3	3	0	2	1	0	C - - A1 - -
cub	野獣の子	3	4	0	1	1	1	- S - A1 - -
donkey	ロバ	3	6	0	2	1	0	- - M A1 A2 B1
mule	ラバ	3	5	0	3	0	0	- S - A1 - -
pack	イヌの群れ	3	5	0	1	3	0	- S - - A2 B1
puppy	子犬	3	3	0	2	0	1	- S M A1 - B1
rascal	劣ったシカ	3	3	0	0	0	3	- S - - A2 -
sable	クロテン	3	4	0	0	0	3	- S - - - -

troop	ウマの群れ	3	3	0	0	3	0	- - - - -
ape	類人猿	2	3	0	0	1	1	C S M A1 A2 B1
brace	ウマやライオンの番	2	2	0	0	2	0	- - - - -
buck	雄鹿	2	3	0	2	1	0	C S M - A2 -
charger	軍馬	2	2	0	1	1	0	- - - - A2 B1
cob	(短脚の頑丈な) ウマ	2	10	0	2	0	0	- - - A1 - -
colt	雄の子馬	2	2	0	2	0	0	C S M A1 A2 B1
hackney	乗用馬	2	2	0	1	1	0	C S - - - B1
hunter	ウマ	2	6	0	2	0	0	- - - - A2 -
kine	雌牛	2	2	0	1	1	0	C S - A1 A2 -
kitten	子猫	2	2	0	1	0	1	- S M A1 A2 -
otter	カワウソ	2	3	0	0	1	1	- S M - - B1
pup	子犬	2	5	0	2	0	1	- - - - A2 -
puss	ネコの愛称	2	6	0	2	0	0	- - M A1 A2 B1
pussy	ネコの愛称	2	8	0	2	0	0	- - M - A2 B1
ram	雄羊	2	2	0	0	1	1	C S M A1 - B1
swine	ブタ	2	5	0	2	0	0	C S M A1 A2 B1
tyke	野良犬	2	20	1	1	0	0	- S - - - B1
whelp	イヌの子	2	2	0	1	0	1	C S - A1 - -
wild cat	ヤマネコ	2	2	0	0	1	1	- S - - - -
Arab mare	雌のアラブウマ	1	1	0	1	0	0	- - - - -
ass	ロバ	1	1	0	0	0	1	C S M A1 A2 B1
bat	コウモリ	1	1	0	0	1	0	- S M A1 A2 -
beagle	ビーグル	1	1	0	1	0	0	- S - - - -
beaver	ビーバー	1	1	0	0	1	0	C - - A1 - B1
coney	アナウサギ	1	1	0	0	1	0	C S - - A2 -
cry	猟犬の群れ	1	1	0	0	1	0	- S - - - -
cuddy	(子)馬	1	3	0	1	0	0	- - - - -
deer stag	雄のシカ	1	2	0	1	0	0	- - - - -
dickey	= donkey	1	9	0	1	0	0	- - - - -
doggie	イヌの愛称	1	1	0	1	0	0	- - M - - B1
dolphin	イルカ	1	3	0	1	0	0	- S - - - -
drove	家畜の群れ	1	1	0	0	1	0	- - - - -
elephant	ゾウ	1	1	0	0	1	0	C S M - A2 B1
ermine	オコジョ	1	1	0	0	1	0	- - - - -
Exmoor royal stag	エクスマア産の枝角の 尖が12以上のシカ	1	1	0	0	1	0	- - - - -
fallow deer	ダマジカ	1	1	0	0	1	0	- - - - -
foxhound	フォックスハウンド	1	1	0	0	1	0	- - - - - B1
gelding	去勢馬	1	1	0	0	1	0	C S - - A2 -
grey	羃毛	1	4	0	1	1	0	- - - - - B1
Guernsey	ガンーンジー産の牛	1	1	0	0	1	0	- - - - -
hedgehog	ハリネズミ	1	2	0	1	0	0	C S M A1 A2 B1
hind	雌ジカ	1	1	0	1	0	0	C S - - A2 B1
horsey	ウマの愛称	1	2	0	1	0	0	- - - - -
house-dog	番犬	1	1	0	1	0	0	- - - - -
jack ass	雄ロバ	1	1	0	0	1	0	- - - - -
litter	獣の1群れ	1	1	0	0	1	0	- - - - A2 -
mastiff	マスチフ	1	1	0	0	1	0	- S - - - B1
milch-kine	乳牛	1	2	0	1	0	0	- - - - -
milker	乳牛	1	1	1	0	0	0	- - - - -
mongrel	雑種犬	1	1	0	0	1	0	- S - - - -
monkey	サル	1	1	0	0	0	1	- S M A1 A2 B1
mount	乗用馬	1	1	0	1	0	0	- - - - - B1
mouser	ネコのこと	1	1	0	1	0	0	- - - - A2 -
nag	駑馬	1	1	0	0	1	0	- S M A1 A2 -
Neddy	= donkey	1	1	0	1	0	0	- - - A1 - B1
nestle-tripe	生まれたばかりのブタの子	1	1	0	1	0	0	- - - - - B1

Newfoundland	ニューファンドランド	1	1	0	0	1	0	---	-	-	B1
nirrup	= donkey	1	11	0	1	0	0	---	-	-	-
pack-horse	荷馬	1	1	0	0	1	0	---	-	-	B1
palfrey	乗用馬	1	3	0	0	1	0	C S	-	-	A2 B1
piglet	子豚	1	1	0	1	0	0	---	A1	A2	-
polecat	ケナガイタチ	1	1	0	0	1	0	C S	-	-	A2 -
pricky-back 'otch'n	= hedgehog	1	1	0	1	0	0	---	-	-	-
red	赤毛 (のウマ)	1	1	0	0	1	0	---	-	-	-
red deer	アカシカ	1	1	0	0	1	0	---	-	-	-
sangler	= wild boar	1	1	0	1	0	0	---	-	-	-
sheep dog	牧用犬	1	1	0	1	0	0	---	-	A2	-
spaniel	スパニエル	1	2	0	1	0	0	C S M	A1	A2	B1
squirrel	リス	1	1	0	1	0	0	C S	-	A1	- B1
stallion	種馬	1	1	0	1	0	0	---	A1	-	-
strawberry roan	地色がはっきりした赤の槽毛のウマ	1	1	0	1	0	0	---	-	-	-
sumpter	荷馬	1	1	0	0	1	0	- S	-	-	-
tabby	トラ猫, ブチ猫	1	2	0	1	0	0	---	-	-	-
terrier	テリア	1	1	0	0	0	1	---	-	A2	-
tom	雄猫	1	1	0	1	0	0	---	-	-	-
urchin	ハリネズミ	1	1	0	0	0	1	C S M	A1	-	B1
vermin	害獣	1	3	0	1	0	0	C S	-	-	-
vixen	雌狐	1	2	0	0	0	1	---	A1	-	B1
weasel	イタチ	1	3	0	1	0	0	C S M	-	A2	B1
wether	去勢した雄牛	1	2	0	1	0	0	C S	-	-	-
whale	クジラ	1	1	0	0	1	0	C S M	-	A2	B1
wolf-dog	オオカミ犬	1	1	0	1	0	0	---	-	-	-
wolf-hound	ウルフハウンド	1	3	0	1	0	0	---	-	-	-
yoke	一対の牛	1	2	0	0	1	0	---	-	-	B1

表2. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-B2: 鳥 類

動物名	日本語訳	登場する 回数の数	合計登場 回数	主 題	モチ ーフ	情景描 写	修 辞	その他の資料			
cock	雄鶏	29	47	0	9	9	11	C S M A1 A2 B1			
hawk	タカ	8	13	0	4	3	1	C S M A1 A2 B1			
hen	雌鳥	8	21	0	4	4	0	C S M A1 A2 B1			
raven	ワタリガラス	8	16	0	6	0	2	C S M A1 A2 B1			
chicken	ニワトリ, ヒヨコ	5	8	0	3	3	0	C S M A1 A2 B1			
crow	カラス	5	8	0	2	2	1	C S M A1 A2 B1			
goose	ガチョウ	5	19	0	5	1	1	C S M A1 A2 B1			
owl	フクロウ	5	10	0	1	3	1	C S M A1 A2 B1			
duck	アヒル	4	9	0	2	0	3	C S M A1 A2 B1			
jackdaw	コクマルガラス	4	7	0	2	1	1	---	-	A2 -	
falcon	猛禽	3	4	0	2	1	0	C S	-	A1 A2 B1	
magpie	カササギ	3	4	0	2	0	1	- S M	A1	A2 -	
brood	一かえりの雛	2	2	0	1	1	0	C	-	-	-
cuckoo	カッコウ	2	2	0	0	0	2	C S M	A1	A2 B1	
eagle	ワシ	2	5	0	2	0	1	C S M	A1	A2 -	
lark	ヒバリ	2	4	0	0	1	1	C S M	A1	A2 -	
parrot	オウム	2	2	0	1	0	1	- S M	A1	A2 -	
pigeon	イエバト	2	3	0	1	1	0	- S M	A1	A2 -	
poultry	家禽	2	2	0	2	0	0	---	A1	A2 -	

sparrow	スズメ	2	8	0	2	0	0	C S M A1 - -
swallow	ツバメ	2	3	0	0	0	2	C S M A1 - B1
swan	ハクチョウ	2	2	0	1	1	0	C S M A1 A2 -
blackbird	クロウタドリ	1	4	0	1	0	0	- - M A1 - B1
brace	鳥の番	1	1	0	0	1	0	- - - - - B1
carrion crow	ハシボソガラス	1	1	0	0	1	0	- - M - - -
chanticleer	雄鶏	1	1	0	1	0	0	C S - - - -
copyy	とさかのある雌鳥	1	2	0	1	0	0	- - - - - -
daw	= jackdaw	1	3	0	1	0	0	- S - - A2 -
dow	= dove	1	1	0	1	0	0	- - - - - -
drake	雄ガモ(アヒル)	1	1	0	1	0	0	C - M - A2 B1
duckling	アヒルの子	1	2	0	1	0	0	- - M - - -
fledgling	ひな鳥	1	1	0	1	0	0	- - - - - -
gosling	ガチョウの雛	1	1	0	1	0	0	- S - - - -
grey goose	ハイイロガン	1	7	0	1	0	0	- - - - - -
gull	カモメ	1	1	0	0	1	0	- S - - A2 -
halcyon	カワセミ	1	1	0	0	0	1	- S - - - -
kae	= crow	1	1	0	1	0	0	- - - - - -
moorhen	バン	1	1	0	1	0	0	- - - - - -
pheasant	キジ	1	1	0	0	1	0	C S M - A2 B1
robin	コマドリ	1	6	0	1	0	0	- - M A1 A2 -
robin herdick	コマドリ	1	1	0	0	0	1	- - - - - -
starling	ホシムクドリ	1	2	0	1	0	0	- S - A1 - -
stumpy	= wren	1	1	0	1	0	0	- - - - - -
turkey	七面鳥	1	1	0	0	0	1	- S M A1 - B1
turtle dow	= turtle dove	1	1	0	1	0	0	- - - - - -
water-fowl	水鳥	1	1	0	0	1	0	- - - - A2 B1
wild duck	野鴨	1	1	0	0	1	0	- S - - - -
wild goose	野生のガンヤカリ	1	3	0	1	0	0	- S - - - -
wild-fowl	野鳥	1	1	0	0	1	0	- - - - - -
willow-biter	不明(ヤナギクイにあたる)	1	1	0	0	1	0	- - - - - -
wood(-)quest	モリバト	1	2	0	1	0	0	- - - - - -
wood-pigeon	モリバト	1	1	0	1	0	0	- - - - A2 -

表3. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-B2: 爬虫類

動物名	日本語訳	登場する 話の数	合計 登場 数	主 題	モチ ーフ	情景 描写	修 辞	その他の資料
snake	へび	9	14	0	5	0	4	C S - A1 A2 B1
serpent	へび	6	10	0	2	2	2	- S M A1 A2 B1
adder	クサリへび	4	7	0	2	1	1	C S - A1 - B1
viper	クサリへび	3	4	0	2	0	1	- S - - - -
reptile	爬虫類	2	2	0	2	0	0	- - - - - B1
lizard	トカゲ	1	1	0	0	1	0	- S - - - B1
worm	へび	1	1	0	1	0	0	- S - A1 - B1

表4. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-B2: 両生類

動物名	日本語訳	登場する taleの 数	回 合計 登場 数	主 題	モチ ーフ	情景 描写	修 辞	その他の資料
toad	ヒキガエル	12	29	0	5	3	4	C S M A1 A2 B1
frog	カエル	4	5	0	0	3	1	C S M A1 A2 -
ask	=newt (イモリ)	1	2	0	1	0	0	- - - - -
froggy	カエルの愛称	1	2	0	0	0	1	- - M - - -

表5. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-B2: 魚介類

動物名	日本語訳	登場する taleの 数	回 合計 登場 数	主 題	モチ ーフ	情景 描写	修 辞	その他の資料
eel	ウナギ	9	12	0	3	5	1	C S M A1 A2 B1
salmon	サケ	4	11	0	3	1	0	C S M A1 A2 -
herring	ニシン	2	3	0	2	0	0	- S M A1 A2 B1
trout	マス	2	2	0	1	1	0	- S - A1 A2 B1
bream	ブリーム	1	2	0	1	0	0	C - - - - B1
choke-children	= bream	1	1	0	1	0	0	- - - - -
conger	アナゴ	1	5	0	1	0	0	- S - - A2 B1
conger eel	アナゴ	1	1	0	1	0	0	- - - - A2 B1
gudgeon	タイリクスナモグリ	1	1	0	0	0	1	- S - - - -
kipper	キッパー	1	1	0	0	1	0	- - - - A2 -
limpet	ザルガイ	1	1	0	0	1	0	- - - A1 - B1
mussel	ムラサキイガイ	1	2	0	1	0	0	C S - A1 - -
pilchard	サーディン	1	4	0	1	0	0	-(S)- - A2 -
sandeel	イカナゴ	1	1	0	1	0	0	- - - - -
scallop	ホタテガイ	1	1	0	1	0	0	- - - - -
shark	サメ	1	3	0	1	0	1	- S - A1 - -
slug	ナメクジ	1	1	0	0	0	1	C S - - A2 -
snail	カタツムリ	1	1	0	0	1	0	- S M A1 A2 -
thornback	イボガンギ	1	1	0	1	0	0	- - - - -
whelk	ヨーロッパバイ	1	1	0	1	0	0	- - - - - B1

表6. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-B2: 昆虫類

動物名	日本語訳	登場する taleの 数	回 合計 登場 数	主 題	モチ ーフ	情景 描写	修 辞	その他の資料
bee	ミツバチ	9	20	0	7	0	2	C S M A1 A2 B1
flea	ノミ	4	6	0	3	1	0	C S M A1 A2 -
fly	ハエなど	3	3	0	0	1	2	C S M A1 A2 B1

butterfly	チョウ	2	5	0	2	0	0	C S M A1 A2 B1
swarm	ミツバチの群れ	2	2	0	0	2	0	- - - - A2 B1
beetle	甲虫	1	2	0	1	0	0	- S M A1 - B1
cricket	コオロギ	1	1	0	0	0	1	- S M - - -
humble-bee	マルハナバチ	1	2	0	1	0	0	- S M - - -
witchie clock	= beetle	1	1	0	1	0	0	- - - - -
worm	芋虫, 青虫	1	1	0	0	1	0	C S M - - -

表 7. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-B2：架空動物

動物名	日本語訳	登場する 例の数	合計 登場 回数	主 題	モチ ーフ	情景描 写	修 辞	その他の資料
dragon	ドラゴン	11	30	0	7	1	4	C S M A1 - B1
basilisk	バジリスク	1	1	0	0	0	1	C S - - - -
hydra	ヒドラ	1	1	0	0	0	1	C S - - - -
mermaid	人魚	1	1	0	0	1	0	C S - A1 A2 B1
sea-monster	海の怪獣	1	2	0	1	0	0	- S - - - -
unicorn	ユニコーン	1	1	0	0	0	1	- S M - - -
worm	ドラゴン	1	0	0	0	1	0	- - - A1 - B1

表 8. イギリスの民話・伝説に現れる動物名-B2：その他

動物名	日本語訳	登場する 例の数	合計 登場 回数	主 題	モチ ーフ	情景描 写	修 辞	その他の資料
vermin	害獣	2	2	0	1	1	0	C S - - (A2) B1
lobster	ロブスター	1	1	0	0	1	0	- - M - - B1
spider	クモ	1	8	0	1	0	0	- S M A1 A2 -

てか英国の民話・伝説には魔女が hare に姿を変えて出歩き、偵察したり悪さをしたりするという話が見られる。Dictionary の魔女伝説の章にはそういう趣旨の話が数多く集められている⁵⁾。日本の民話・伝説にもウサギは登場するが、与えられている役割が大きく違う。そもそも日本の昔話には魔法使いというものが登場しないから、魔法使いがなにかに化けるといパターンの話は存在しないわけだが、山姥や天狗のようなものなら登場する。しかし、それらがウサギに化けるとい話は一般的ではないであろう。

魔女や魔法使いが化ける動物は hare だけではない。Owl, (black) cat, toad などにも姿を変えることがある⁶⁾。これらは一般に不吉な動物というイメージのある動物である。これらの動物はまた、魔法使いや悪魔の使い魔 (familiar) としても登場する⁷⁾。使い魔とはご主人様の

手先として動く小悪魔のことである。

4. 結 語

本稿は、すでに述べたように Katherine M. Briggs の *A Dictionary of British Folktales in the English Language* 全 4 巻 (ペーパーバック版では 2 巻にまとめられた) の最終巻について調べた結果をまとめたものであり、これをもって既発表の 3 篇 (池田; 2004, 2007, 2008) と合わせて Briggs の *Dictionary* に登場する動物名に関するデータがすべて揃ったことになる。なお、植物に関するデータはすでに発表されている (池田; 1998, 1999, 2000, 2001)。植物に関しては 4 巻全体を 1 つにまとめた表と簡単な考察を 4 巻目についての稿で付録として付けることができたが、動物についての本文では紙数の都合で

きなかった。別の機会に譲ることにする。

全巻を通じて植物より動物のほうが登場回数が圧倒的に多く、総言及回数(8913回)で植物の4倍強、種類数(480種)で約2.3倍に達する。動物の植物に対する圧倒的な優位は今まで調べた Chaucer, Shakespeare, 伝承童謡, 民話・伝説のいずれにおいても一貫している⁸⁾。この辺にイギリス人の伝統的動植物観の傾向がよく現れていると考えられる。日本の古典や民間伝承であればこれほどまで動物優位にはならないと思われる。日本では作品によってはかえって植物優位のこともある⁹⁾。文学作品や民間伝承での動植物への言及はやはりなんらかの関心の表れと考えられるから、いままで得られた結果からみて、伝統的にイギリス人は植物よりはるかに動物に関心が強く、植物に対する関心は日本人ほど強くはないと言ってよいであろう。しかし現在はガーデニングなどの流行¹⁰⁾によりイギリス人の植物に対する関心が以前より高まってきているように感じられる。現代の文学作品や都市伝説などを調べれば新しい傾向が見出されるかもしれない。

註

- 1) 池田(1989), 同(1992), 同(1997), 同(2004), 同(2007), 同(2008)。
- 2) コンピュータの利用に関しては、池田(2008)の註2)を参照。
- 3) 動物名拾い出しの基準は以下の通りである。例は Part B, Volume II に合わせてある。
 - a) 基本的方針として、動物の種ではなく名を扱う。つまり同じ動物が複数の異なる名で現れる場合、それぞれの名を別々に扱う。例えば, ass, dickey, donkey, Neddy, nirrup (どれもロバの意) はひとつにまとめず、独立したものとして扱う。
 - b) 名詞以外の品詞も採る。ただし表での見出しは名詞形に統一する。たとえば「仔牛を生む」という意味で使われている動詞形の calve も名詞の calf 同様に1つと数えている。
 - c) 複合語の一部として含まれている動物名も、話の中で動物の意味が生きているときは、採る。Field-bee の bee, horseback の horse 等がこれにあたる。
 - d) 方言形については、それが標準英語の語形の訛ったものである場合は、その方言形を別の見出しとして立てずに標準英語の語形のところに入れる。したがって bea と coo とはそれぞれ bee と cow の見出しに入る。しかし、標準語形とかけ離れた方言形は別の見出しとして立てる。たとえば newt の意の方言 ask は、別に ask という見出しを立てる。
 - e) 民話という性格上、動物名がしばしば固有名詞化しているが、動物の意味が生きているかぎりは、これらも動物名とみなす。

f) *Dictionary* の本文中に説明のために直接書き込まれている編者または著者の註の中に現れる動物名は採らない。

g) 動物名に付した日本語訳は、動物学的正確さを意図するものではなく、おおまかな参考程度とする。

拾い出した動物名の整理の仕方と方針は下記の通りである。

動物の頻度は合計登場回数ではなく、ある動物がいくつの民話に現れているかを鍵として整理する。そうする一番大きな理由は Briggs の *Dictionary* 中の民話の採録形態(form)がさまざまで、原典からの完全版ではない要約、短縮版がかなりの数含まれているからである。ただし合計登場回数も調べて表に載せ分析に使うこととする。

動物の民話中での扱われ方については、主題、モチーフ、背景描写、修辭の項目を設けて整理している。主題は、動物が話の中心として扱われているかまたは擬人化して主人公になっている場合もしくはそれに近い場合を表す。モチーフは、民話を分類する際に使う話素のことで、動物が話の展開上欠かせない要素である場合またはこれに準ずる場合を表す。背景描写は、主題でもモチーフでもなく背景の描写またはいろいろな説明に動物名が現れている場合を表す。修辭は、比喩など文の飾りとして動物が用いられる場合を示す。表中これらの項目にのせている数字はその動物が現れる話の数を示している。動物の扱われ方に関する判断は重要度の高いほうにやや傾斜したものになっている。言いかえれば、比較的甘くなっている。ひとつの動物に関して、主題、モチーフ、背景描写、修辭という4項目の数値の合計がその動物が登場する話の数より大きい場合があるのは、同じ話のなかでその動物が2つ以上の違った扱いをうけていることがあるからである。

表中の「ほかの資料」の列には Chaucer, Shakespeare, Mother Goose (英国の伝承童謡), Briggs の *Dictionary*, Part A, Volume I と Volume II, Part B, Volume I にその動物への言及があるかどうかを示してある。言及がある場合はそれぞれ C, S, M, A1, A2, B1 という記号でそのことを示した。

Mother Goose は、民間伝承であるため対象となる範囲が確定しないので、数値を扱うときには便宜的に次の2書に集録されている唄を調査範囲とすることにした。すなわち Miyakawa, Yoshihisa and Shigehiko Toyama. *A Handbook of Nursery Rhymes*. (Tokyo: Kenkyusha, 1985) と Opie, Iona and Peter. *The Oxford Nursery Rhyme Book*. (Oxford et al.: Oxford University Press, 1985) の2書である。

- 4) 池田(1989), 同(1992), 同(1997), 同(2004), 同(2007), 同(2008)を基に、

Chaucer, Shakespeare, Mother Goose, Briggs の *Dictionary, Part A, Volume I* 及び *Volume II, Part B, Volume I* に登場する動物名に関する数値を以下に示す。比較の便のために *Dictionary, Part B, Volume II* の数字も再掲する。

哺乳類の異なる名の総数と合計言及回数

Chaucer	80種	658回
Shakespeare	144種	2378回
Mother Goose	91種	939回
<i>Dictionary, AI</i>	87種	1450回
<i>Dictionary, AII</i>	113種	1977回
<i>Dictionary, BI</i>	113種	1216回
<i>Dictionary, BII</i>	135種	1702回

鳥類の異なる名の総数と合計言及回数

Chaucer	67種	350回
Shakespeare	93種	751回
Mother Goose	64種	416回
<i>Dictionary, AI</i>	59種	424回
<i>Dictionary, AII</i>	67種	737回
<i>Dictionary, BI</i>	37種	128回
<i>Dictionary, BII</i>	52種	251回

爬虫類の異なる名の総数と合計言及回数

Chaucer	4種	25回
Shakespeare	12種	131回
Mother Goose	2種	2回
<i>Dictionary, AI</i>	5種	64回
<i>Dictionary, AII</i>	3種	5回
<i>Dictionary, BI</i>	8種	38回
<i>Dictionary, BII</i>	7種	39回

両生類の異なる名の総数と合計言及回数

Chaucer	3種	3回
Shakespeare	5種	40回
Mother Goose	4種	46回
<i>Dictionary, AI</i>	5種	100回
<i>Dictionary, AII</i>	4種	13回
<i>Dictionary, BI</i>	3種	7回
<i>Dictionary, BII</i>	4種	38回

魚介類の異なる名の総数と合計言及回数

Chaucer	13種	27回
Shakespeare	31種	96回
Mother Goose	11種	25回
<i>Dictionary, AI</i>	14種	30回
<i>Dictionary, AII</i>	19種	74回
<i>Dictionary, BI</i>	15種	32回
<i>Dictionary, BII</i>	20種	55回

昆虫類の異なる名の総数と合計言及回数

Chaucer	9種	43回
Shakespeare	30種	213回
Mother Goose	13種	39回
<i>Dictionary, AI</i>	13種	50回

<i>Dictionary, AII</i>	13種	79回
<i>Dictionary, BI</i>	11種	21回
<i>Dictionary, BII</i>	10種	43回

架空動物の異なる名の総数と合計言及回数

Chaucer	12種	35回
Shakespeare	23種	99回
Mother Goose	2種	4回
<i>Dictionary, AI</i>	7種	80回
<i>Dictionary, AII</i>	1種	1回
<i>Dictionary, BI</i>	40種	238回
<i>Dictionary, BII</i>	7種	36回

その他の動物の異なる名の総数と合計言及回数

Chaucer	7種	37回
Shakespeare	15種	101回
Mother Goose	4種	14回
<i>Dictionary, AI</i>	1種	3回
<i>Dictionary, AII</i>	6種	30回
<i>Dictionary, BI</i>	4種	6回
<i>Dictionary, BII</i>	3種	11回

異なる動物名の総合計と総言及回数

Chaucer	195種	1178回
Shakespeare	353種	3809回
Mother Goose	191種	1485回
<i>Dictionary, AI</i>	191種	2136回
<i>Dictionary, AII</i>	226種	2916回
<i>Dictionary, BI</i>	231種	1686回
<i>Dictionary, BII</i>	238種	2175回

- 5) Witches の章の The Bridgwater Rabbit, The Easington Hare, The Hare and the Harbourn, Jane Wood of Basedale やその他の話にその例が見られる。
- 6) 魔女や魔法使いが化ける動物。Owl の例: Witches at Hallowe'en。Cat の例: A Cat on a Gate, The Four-Eyed Cat, The Weaver's Wife and the Witch など。Toad の例: The Witch and the Toad。
- 7) 使い魔となる動物。Owl の例: The Witches of Belvoir。Cat の例: The Witch of Fraddam and the Enchanter of Pengerswick など。Toad の例: Dick, Duke and Merryboy; Toads on the Road。
- 8) 池田 (1987), 同 (1989), 同 (1992), 同 (1997), 同 (1998), 同 (1999), 同 (2000), 同 (2001), 同 (2004), 同 (2007), 同 (2008) を参照。
- 9) 池田 (1987) と同 (1992) に若干証拠が挙げられている。
- 10) ガーデニングすなわち園芸への関心が庶民の間で高まったのは、英国より日本のほうがはるかに早く、江戸時代である。それ以来日本の園芸植物が西洋に輸出され影響を与えてきた。そういう点にも日本人の植物好きの伝統がうかがえる。

参考文献

- The Oxford English Dictionary* 2nd ed. on CD-ROM Version
2. Oxford: Oxford University Press, 1999.
- Briggs, Katherine M. *A Dictionary of British Folktales in the English Language* Parts A and B. London: Paperback by Routledge, 1999.
- _____. *An Encyclopedia of Fairies: Hobgoblins, Brownies, Bogies, and Other Supernatural Creatures*. New York: Pantheon Books, 1976.
- Miyakawa, Yoshihisa and Shigehiko Toyama. *A Handbook of Nursery Rhymes*. Tokyo: Kenkyusha, 1985.
- Opie, Iona and Peter. *The Oxford Nursery Rhyme Book*. Oxford et al.: Oxford University Press, 1985.
- Opie, Iona and Moira Tatem ed. *A Dictionary of Superstitions*. Oxford and New York: Oxford University Press, 1992.
- Pickering, David. *Dictionary of Superstitions*. London: Cassell, 1995.
- Wright, Joseph ed. *The English Dialect Dictionary*. Oxford University Press, First published 1905, Third impression 1986.
- 安東伸介, 小池 滋, 出口保夫, 船戸英夫編『イギリスの生活と文化事典』研究社, 1986年。
- 加藤憲市著『英文学動物ばなし』松柏社, 昭和53年。
- キャサリン・ブリッグズ編著, 平野敬一, 井村君江, 三宅忠明, 吉田新一共訳『妖精事典』富山房, 1992年。
- 成田成寿編集『英語歳時記 普及版』研究社出版, 1983年。
- P・ミルワード著『イギリス風物誌』（スタンダード英語講座11）大修館書店, 1985年。
- ピーター・ミルワード著中山理訳『英文学のための動物物事典』大修館書店, 1990年。
- 池田広昭（1987）「マザー・グースの中の植物」（『幾徳工業大学研究報告』A-11, 昭和62年）。
- _____（1989）「マザー・グースに現れる動物名」（『神奈川工科大学研究報告』A-13, 平成元年）。
- _____（1992）「Shakespeareの言及している動植物名」（『神奈川工科大学研究報告』A-16, 平成4年）。
- _____（1993）「英国で伝統的に関心を持たれている植物—Mother GooseとShakespeareの比較—」（『神奈川工科大学研究報告』A-17, 平成5年）。
- _____（1997）「Chaucerの言及している動植物名」（『神奈川工科大学研究報告』A-21, 平成9年）。
- _____（1998）「イギリス民話の寓話・教訓話及びフェアリーテールに現れる植物」（『神奈川工科大学研究報告』A-22, 平成10年）。
- _____（1999）「イギリス民話の笑い話, ノヴェル及びナーサリーテールに現れる植物」（『神奈川工科大学研究報告』A-23, 平成11年）。
- _____（2000）「イギリスの伝説に現れる植物—I」（『神奈川工科大学研究報告』A-24, 平成12年）。
- _____（2001）「イギリスの伝説に現れる植物—II」（『神奈川工科大学研究報告』A-25, 平成13年）。
- _____（2004）「イギリスの民話・伝説に現れる動物名—I」（『神奈川工科大学研究報告』A-28, 平成16年）。
- _____（2007）「イギリスの民話・伝説に現れる動物名—II」（『神奈川工科大学研究報告』A-31, 平成19年）。
- _____（2008）「イギリスの民話・伝説に現れる動物名—III」（『神奈川工科大学研究報告』A-32, 平成20年）。